

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究^(シ01)

研究組織 橘川英規、米沢玲、田代裕一朗、江村知子、安永拓世、二神葉子、小山田智寛、吉田暁子、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、高階郁美、田村彩子（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、小林公治（特任研究員）、山梨絵美子、永崎研宣（以上、客員研究員）、久保田裕道（無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、金井健（文化遺産国際協力センター）

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちを整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果

1. 調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・公開

- 当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ(IRDB)で公開する作業を進め、161件新たに追加し合計15タイトル4,006件の論文・報告書のフルテキストを公開した。
- 平成31年・令和元年の展覧会カタログ所載記事・論文のデータ4,870件を「東京文化財研究所美術文献目録」を世界最大の図書目録であるWorldCatで検索可能な状態にするため、米国Online Computer Library Center (OCLC)に提供した。(12月)

2. 国内外の関連機関との連携・研究協議・成果公開

- セイNZベリー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー所長、松葉涼子氏が来訪、研究協議を行った(7月21日)。同研究所との共同研究において、海外での日本美術に関する研究成果(論文発表、展覧会開催)の調査を実施、その結果を当研究所ウェブサイト内で公開。調査活動の共有と共同研究の進展のために、オンライン協議を行った(12月13日)。同研究所のサイモン・ケイナー所長、松葉涼子氏、林美和子氏が来訪、研究協議を行った(2023(令和5)年3月9日)。
- Art Libraries Society of North America (ARLIS/NA、北米美術図書館協会)国際関係担当委員のダン・リップカン氏、コロンビア大学パークセンターの岡みどり氏が来訪し、当研究所、国立西洋美術館、国立国会図書館等を共に視察し、研究協議を行った(8月

16日)。

- アメリカのゲッティ研究所との共同研究を継続的にを行い、美術史研究における基礎資料242件(画家印譜集、美術家番付、大型画集等)をインターネットに公開、Getty Research Portal (GRP)へメタデータを提供した(9月)。
- 京都府との共同研究：京都府が所蔵する昭和初期の文化財調書20,000点のデジタル画像のうち約4,000件のメタデータを追加(累積18,555件)、データベース構築を行い、公開活用のための協議を京都府担当者で行った(10月26日、2023(令和5)年3月22日)。
- 韓国・民族文化遺産研究院の権赫周院長と植民地期の工芸製作記録について協議し、現状を視察した(2023(令和5)年3月18~21日)。



ARLIS/NA国際委員ダン・リップカン氏らの視察